

例会 NO. 397
NO. 9-26 1999. 1. 20 発行
(例会日: 1999. 1. 13)



1998~1999年度R1テーマ
ロータリーの夢を
追いつけよう



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1998~1999年度クラブ目標 “ 心と心のふれあい ” (HEART TO HEART)

司会 SAA委員会 松垣 昭

◇委員会報告◇

- ◎点鐘 会長 杉田 誠
◎ロータリーソング『我等の生業』
ソングリーダー 吉沢 洋一
◎お客様紹介 会長 杉田 誠
多摩市長(卓話者) 白井千秋様
多摩市秘書広報課長 立川慎一様
岡山西南RC 椎原裕二様

◎出席報告		出席委員会・委員長 村上 久	
会員総数	出席義務者	出席者	出席率
48名	47名	40名	85.11%
1/6	訂正出席率	93.62%	
12/22	最終訂正出席率	91.84%	

欠席者 福島達也、平野行廣、猪俣末男、伊澤ケイ子
菊池 敏、田畑 博、高野範城

- ◎会務報告 会長 杉田 誠
① 12/16の例会でお話ししましたR1第2750地区のバギオ基金の募金について、本日協力をお願いします。
② 社会奉仕活動の一環として、書き損じハガキの収集への協力をお願いします。
③ 今年度地区大会(グアム)の大会要領が来ました。
④ R1第2750地区の2000~2001年ガバナー・ノミネーに世田谷RCの川尻政輝様が選任されたとの連絡がありました。

- ◎ニコニコBOX 親睦活動委員会・委員 須藤 起雄
白井千秋市長 明けましておめでとうございます。
杉田 誠 白井市長、ご多用の折、卓話ありがとうございます。
佐伯 和廣 白井市長様、ようこそおいで下さいました。卓話よろしくお願いたします。
松垣 昭 正月の佳き日に
萩生田茂夫 明けまして御目出度う御座います。今年もよろしく御願い申し上げます。
海野 栄一 白井市長様、ようこそいらっしゃいました。
大松 誠二 かげがやと退散しました。皆さんも気をつけて
中山 恒武 皆様おひさし振りです。本年もよろしくお願いたします。不本意ながら欠席勝ちで申し訳ありません。
伊藤 英也 白井市長の卓話楽しみにしています。
杉山 英巳 白井市長さん、本日はご苦労様です。
須藤 起雄 雨が降ってほしいですね。
本日の合計 金37,000円(累計 832,964円)

- ◎幹事報告 幹事 佐伯 和廣
① 4月の地区大会(グアム)出席者の最終登録は、2月1日です。そこで、出席者の確認をしたいので、本日出席者の出欠予定表を回覧いたします。
② 次年度会員名簿内容の確認と1998年度手続要覧の申込確認のため回覧を致します。
③ R1第2750地区バギオ基金の募金のため、根本委員長が各テーブルを回りますので、応募して下さい。

◎次年度会務報告 会長エレクト 海野 栄一
本日例会後事務局で被選理事会を開催します。

◎ロータリー財団の表彰 R財団委員長 伊藤 英也
マルチプル・ポールハリス表彰 会員 宮本 誠



表彰される宮本会員



卓話される白井市長

◎地区ガバナー月信編集委員 遠藤 立一
今月のガバナー月信に、当クラブへのガバナー訪問の記事が載っています。ぜひご覧下さい。

◎国際奉仕委員会報告 委員長 根本 泰守
R1第2750地区バギオ基金の募金のため、各テーブルを回りましたところ、金37,500円の応募を頂きました。有り難うございました。

【ご紹介】 地域発展委員会・委員長 杉山 英巳
地域の発展に大きな努力をされている多摩市長の白井千秋様をお迎えしました。白井様は、五期目の多摩市長を勤めておられるほか、東京都市長会長でもあります。

【卓話の概要】

(公職への契機)

ご紹介いただきました多摩市長の白井でございます。日頃、東京多摩グリーンロータリークラブの皆様が社会奉仕の活動を積極的に行っておられ、多摩市の行政をもご支援下さいますことに心から御礼を申し上げます。

私は、多摩市に生まれ育ち、ほかに住んだことがない者でございます。振り返ってみますと、昭和38年に先代の富澤多摩市長さんから、教育委員とならないかと言われたのですが、私は、教育は素人ですとお断りしましたところ、専門家は部内に大勢いるから、素人の立場で判断してくればよいという事で、やむなくお引き受けして、8年間お手伝いを致しました。46年の春、当時私どもが信頼し推薦をしておりました町議会議員の方から、事業の関係で、議員を続けられなくなったので、ぜひ後を引き受けてくれとの申出があり、再三お断りしたのですが、結局、8年間議員を務めさせていただきました。更に、54年には、先代の富沢市長さんから、勧められて、思っても見なかった多摩市長になる羽目になりました。

当時、既に46年から多摩ニュータウンの入居が始まっており、町造りの方向は定まっていたのでございます。当時は、市の人口が年間6千人から7千人増加していき、一番の問題は学校の増設でした。年間3、4校、多いときには6校も作りました。結局、盛んなときには、20年間で、ニュータウンの外も入れて、32校が作られています。住民のいない丘の上に学校を作ったりしますので、現に住んでいる人達の力だけでは到底できません。多摩ニュータウンの住宅建設と地元市の財政に関する要綱に基づき、日本で初めて、学校建設について、ニュータウンの最終責任者の都がその責任をもつとの約束を得て、国の制度である補助金も目一杯利用し、不足分は都や住宅公団の立替で施工をし、更に足りない分は借金で賄いました。この借金が市の借金の半分を占めてきました。しかし、時代は大きく変わって、あれ程汗を流して作った学校が余ってくるようになりました。既に6校の学校を廃止しようということになりました。お手元の平成11年1月1日現在の多摩市の人口ピラミッドにあります様な人口構成になりまして、年少者が減少し、65歳以上の人口が9.9%となっています。僅かですが、市人口が減少しています。その正確な理由はよく分かりませんが、おそらく、多摩市に生まれた人たちが、ここから新しい

所帯に巣立っている時期ではないかと考えております。

(真のコミュニティの形成を目指す)

議員のとき、同僚の議員から聞いた話ですが、その議員は、自分の住む五階建ての住宅の同じ階段の他の所帯の旦那さん知らないというのです。町には人との触れ合いがなければならぬのに、「これは、大変な事になるぞ!」と実感しました。市長になって、行政として何が一番大切なのか、立派な町を作るのは、良いコミュニティを作らなければならないが、どうしたらよいか悩みました。そして、新しく入ってくる若い20代30代の人達の力を借りることが大切で、それには、先ずスポーツを利用することがよいと考え、数年間に、スポーツの施設、例えば、テニスコート、野球場、プール、武道館など沢山造りました。何故スポーツ施設ばかり造るんだといった批判も出た程でした。市の教育予算を活かして、スポーツの指導者を育成しました。やがて各種のスポーツ連盟が生まれ、体育協会に加盟して、コミュニティの形成や町造りに力を発揮しました。また、スポーツをやる人々のためには、各種の文化活動の拠点となる施設の整備に力を入れました。集会場、コミュニティ・センターを作りました。パルテノンもその一種です。町造りに果たす、或いは果たせる行政の役割は、せいぜい50%の程度であって、残り50%は、実際に街に住む市民の方々が街を好きになって、街を良くする活動にどれだけ多く参加するかによって結論が出てくると私共は認識しております。お陰様で、街に対する愛着が年々高まり、多摩市に住んで、住みやすいと考える人達が90%以上いるとの統計が14年間も続いております。

20年間には、大変多くのことがありました。多摩市は、何世代も住み続けている人は多くなく、新しく移り住んだ人達が多い町です。その意味で、一つの難しさもあります。例えば、痛切に感じたものの一つに議会の構成があります。私は保守系と言われる立場をとってききましたが、今議会では、保守系は8名程にすぎず、行政を進める上で、いろんな苦労があり、遠回りをするのが少なくありませんでしたが、振り返って、考えていた方向に何とか町造りができていると感謝しているところです。

(パルテノンの建設と市政)

ここで、コミュニティ・ホールの最も大きな施設でありますパルテノンの建設の裏話を思いつくままにお話ししてみたいと思います。

私は、機会があつて、ヨーロッパの古い都市に立派な公共施設があり、いつまでも大切に使用している状況を見学して参りまして、大変心を打たれました。旅行から帰って、何とか、多摩市にも、街のシンボルになり、いつまでも使うことのできる施設を造りたいものであるとの思いが募っておりました。当時、住宅公団では、中央公園

の整備をしている最中でしたので、これを活用したいとも考え、専門家の力を借りて、文化施設の設計を行いました。当時は、第一次行政改革の時代であり、自治省では、箱もの建設に少し遠慮しろとっているのが分からないのかというのが最初の話でした。このころ、全国に、20から30の文化施設の計画があり、殆どが20~30億円位でしたが、我々のパルテノンには、総額74億円というものでしたので、目立ったのかも知れません。もっと小さくせよとの指導がありました。しかし、専門家の意見を聞いたり、将来の収入の事を考えると、規模を縮小するには問題がありました。肉声で、声が届くには、1400人の座席が限界だそうですが、これを小さくしたら、一人当たりの負担が割高になって、本当の良い芸術に触れる機会を偏った人々のものにしてしまうおそれがありますと、抵抗しました。しかし、結局、高さの面で、設計変更をし、五階の部分を削り、予算規模を縮小し、設計の面では、何とか不承不承ながら認めて貰いました。しかし、自治省は、新たな条件を付けて来ました。東京のラスパイレス(平均給与水準)が高いから、これを下げなければ、起債を認めないというのです。市の起債には、自治省の許可が必要で、これなしには何もできません。多摩市だけが特別に給与水準が高いわけではなく、都内では普通の水準でしたし、好景気の時代には、地方公共団体で優秀な人材を確保するため必要な事情があって、そうになっていたものと思います。しかし、やむを得ないので、先ず、市長、助役等の報酬を下げることにし、議会に提案しました。我々は、報酬を下げるには、反対はあるまいと思っておりましたが、見事に否決されました。この間、管理職にも、市にシンボリックな施設で、将来重要となるものを作るには、起債が必要で、その為には、ラスパイレスを下げる必要があることを説明し、管理職のベースアップを半年間延伸することを承諾するように求めました。いろいろな意見はありましたが、さすがは管理職で、承諾してくれました。これを貰ってから、一般職員にも同様にベースアップの半年間延伸をお願いしました。ラスパイレスは4月を基準にしますので、ベースアップの延伸でその数値が幾らか下がるわけです。職員組合と大分話し合いましたが、組合としては、はいとはいえないのが実際でしたので、それでは市長の決定として行いますという事で、その決定を行いましたため、大騒ぎになりました。今から振り返ってみると良くやったと思うのですが、その後には、市役所には、反対の組合員が他の東京都内全部から来ましたし、果ては関東各地からバスを何十台も連れてやってきて、市役所が人で一杯になってしまいました。この状況が2ヶ月続きました。私達は、目的を達成しようと頑張り通し、結局、最終

的には、半年間ではなく、3ヶ月間のベースアップ延伸で決着しました。一方、議会との関係でも、簡単ではありませんでした。パルテノン建設資金の74億円は、当時の多摩市市民税の97億円に比べると、一見乱暴に見えるのですが、実際には、59年度から62年度に分けてパルテノンを仕上げたのですが、議会からは、なかなか了解が貰えませんでした。私としては、多摩市の将来のための仕事ができないならば市長をしていても仕方がない、場合によっては、市長を辞める覚悟を決めまして、ただ、その前に、議会を解散させて貰い、市民に判断して貰うことにもしたいとの考えを口にも出しました。そのような緊迫した状況の中で、ご了解をいただきました。

4年間掛けてパルテノンはできましたが、このためには、住宅公団さんには、大変助けて貰いました。パルテノンの五階の部分は、住宅公団の行う中央公園に必要な施設としてその予算を頂き、当初の設計通りの建設を行いました。また、駅から中央公園に行くまでの階段は大変立派なのですが、これはパルテノンの屋根に相当します。しかし、これは道路であるとの位置付けで、道路の予算を活用するなどのあらゆる知恵を働かせました。

今、何十万人の市民が利用しておりますが、元々は、京王プラザホテルやデパートも同時に建設する約束になっていたのです。駅ができて、長らく丘の上プラザのイトーヨーカ堂だけであったのですが、早く市街を熟成させなければと考えていたのでした。結局、2年遅れてホテルとデパートも出来ました。

パルテノンは、街のシンボルになって、企業誘致の誘因にもなっております。例えば、朝日生命でも、社内で、多摩市への社屋建設の話が出たとき、都内では、多摩という奥多摩の方を想像する模様ですが、パルテノンのある多摩市ですという、それなら結構ですという事になったというのです。また、保育園経営の市民の方が同業の全国協議会で沖縄に行ったとき、東京の多摩市から来ましたと言うと沖縄の人から、あのパルテノンのある多摩市ですかと言われてビックリしたというのです。

パルテノンは、内容の良い出し物が毎年来て、かなり知れ渡っています。市から設備人件費5億余、事業活動に5億余の合計11億を出していますが、他市の文化施設の多くが貸し館方式の中で、珍しく自主事業を展開し利用度の高い施設となりまして、大変嬉しく思っております。

今、長年町造りの舵取役をさせていただき、今日に至りましたことに感謝の気持ちで一杯でございます。(拍手)

◎点鐘

会長 杉田 誠

(今週の担当 杉山英巳)